

茨城県畜産センター
平成30年度評価書

令和元年11月
茨城県畜産センター
評価委員会

【様式6】

□総合評価

評価: A(3.3)	試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせ、質・量の両面において着実に取り組みを実施していると判断できる。
<p>外部・内部の人材育成ならびに農業従事者への指導などについては、安定的に成果を上げている。種畜の新規造成など県産畜産物のブランド力向上への取り組みが継続的に行われているが、今年度は種雄牛の交代期に当たり、牛精液の販売本数、農家採卵個数が頭打ちとなった。引き続き優良な種雄・雌畜の造成に努め、県内畜産農家の期待に応えられるような精液及び受精卵を供給し、これまで以上に県産畜産物の品質向上に貢献してもらいたい。また、優良遺伝資源の供給が止まらないように、分離飼養するなど、家畜伝染病対策の徹底、強化をお願いしたい。</p> <p>畜産センターの取り組みを知らせる広報・普及啓発についても、フェイスブックを活用するなど積極的に取り組んでおり、認知度や期待も高まっている。引き続き、茨城の畜産について多くの県民に知ってもらえるよう、さらに工夫をお願いしたい。</p> <p>ニーズの把握では、生産者・企業のニーズだけではなく、最終利用の消費者のニーズをしっかり把握し、試験研究に生かして欲しい。</p> <p>外部資金の獲得により県費の節約にも貢献しているが、共同研究の拡大や外部資金の獲得には研究員の研究力向上が不可欠であることから、異動に伴う研究員の変更が散見される現状では、研究員の能力開発に支障があると思われる。今後の畜産センターにおける研究の推進・発展のために、この点については改善されることを期待したい。</p> <p>畜産センターに期待される、役割や達成すべき目標に照らして、着実に取り組みを進められ、概ね順調に成果を上げていると評価する。 (A:3.3)</p>	

□項目別評価

i) 県民に対して提供する業務

1) 試験研究

評価: A

①デユロック種系統造成豚を活用した肉質向上試験 今回造成したローズD-1は茨城県産の豚肉のブランド力向上に大きく寄与することが期待される。D-1の特徴である筋肉内脂肪含量のバラツキが少なくなるように更なる改良が望まれる。 今後は適切な飼養管理技術の策定などを進め、より高品質の豚肉生産が達成できることを期待する。
②飼料用粳米を中心とした国産飼料資源の利活用試験(乳用牛) 飼料用粳米と豆腐粕サイレージを活用した飼料の利用を可能にしたことで、生産コストの削減や飼料自給率の向上につながることを期待される。生豆腐粕サイレージを利用した、粳米サイレージの普及を期待します。 農家の実用規模でも無駄なく利用できるよう、さらなる低コスト化を目指してもらいたい。また、利用が拡大した場合の原料の供給に課題が生じる可能性があるため、原料の供給体制の整備を随時進めていただきたい。
③飼料用粳米を中心とした国産飼料資源の利活用試験(肉用牛) 飼料用粳米と豆腐粕サイレージを活用した飼料の利用を可能にしたことで、生産コストの削減や飼料自給率の向上につながることを期待される。肥育牛、繁殖牛での利用等、さらなる検証をお願いしたい。 農家の実用規模でも無駄なく利用できるよう、さらなる低コスト化を目指してもらいたい。また、利用が拡大した場合の原料の供給に課題が生じる可能性があるため、原料の供給体制の整備を随時進めていただきたい。
④養豚における飼料用米と豆腐粕の混合サイレージの給与技術確立試験 飼料用米と豆腐粕混合サイレージの豚用代替飼料としての有効性が確認されたが、慣行飼料よりコストが高いと普及は難しいので、調製費の低減に向け更なる工夫が必要である。コスト計算や肉質など、さらなる検証をお願いしたい。

2) 相談業務・依頼分析

評価: A

畜産農家等からの技術相談に適切に対応している。依頼分析では、自給飼料の件数は目標より少なかったが、家畜ふん堆肥等の分析件数は目標を上回っており、実需者のニーズに合った分析を提供しているものと考えられる。

3) 指導業務

評価: AA

人員が限られている中、非常に精力的に研修会等を実施し、技術の普及等に努めていると判断される。
--

4) 施設・設備利用	評価: A
防疫に配慮しつつ、施設・設備の有効活用が図られていると判断される。	
5) 成果の普及活用促進	評価: A
試験研究の成果を普及につなげる取り組みが組織的に行われていると判断される。	
6) 外部人材育成, 教育活動への協力	評価: AA
家畜人工授精講習会の開催支援、共進会・共励会等の審査、畜産教育支援、加工体験の受け入れ等、畜産関係者への教育のみならず、県民に対する啓発活動を積極的に行っている。	
7) 知的財産権の取得・活用及び優良遺伝資源の供給	評価: A
ローズD-1の利用が本格化し、今後さらに需要が増すことが予想される。また和牛についても県内産素牛の利用拡大が期待されており、県内畜産業の発展に充分貢献している。	
8) 広報・普及啓発	評価: A
Facebookやホームページを活用した一般向けの広報活動は非常に効果を上げており、畜産への理解を深める一助となっていると判断される。しかし、学会発表は増えているものの、学術誌への掲載は伸び悩んでおり、学会発表の成果を論文に仕上げるための組織的な取り組みに期待したい。	
ii) 業務の質的向上, 効率化のために実施する方策	
1) 全体マネジメント	評価: A
3機関が連携して試験研究等の推進が図られている。	
2) 県民(企業, 農業者等)ニーズの把握	評価: A
生産者組織団体主催の会議等に出席して生産者ニーズの把握に努めるとともに、公開デーを開催して消費者ニーズの把握にも努めている。得られたニーズが今後の研究計画の立案に反映されることを期待する。	
3) 他機関との連携	評価: AA
大学、国研、他県及び民間との共同研究、国研主催事業への参加、畜産関係団体主導事業への協力など、多くの機関と積極的に連携して活動している。今後はこの連携の質的な向上を図る指標についても検討いただきたい。	
4) 外部資金の獲得方針	評価: A
外部資金は順調に獲得できている。畜産センターとして推進するプロジェクトでの外部資金の獲得をもっと目指していただきたい。	
5) 内部人材育成	評価: AA
可能な範囲で多くの研究員が外部の研修等に参加している。今後これらの経験を活かし、有益な資格を取得するなど、センターの活動の強化につなげてもらいたい。また、育成した人材を活用して新たな成果が創出されることを期待する。	